

3. ひとがつながり、都心の多様な価値を育てる力

定住人口が6万人に回復し、今後、8万人まで増加が予測される住民とともに、千代田区には約80万人の昼間区民が働き、学び、そして、世界や国内各地から多様なひとが訪れ、区内で活動しています。このような人々とまちのつながりを強め、交流し、共に安全・快適で、居心地のよい空間をつくり、地域価値を向上させることで、千代田区の未来が創造されていきます。

千代田区では、町会・連合町会などの基本的な地域のつながりに加えて、大学等の集積の力を活かした協力体制が形づくられています。さらに、まちの望ましい将来像を形にする「まちづくり協議会」や地域価値を維持向上させる「エリアマネジメント」の取り組みが活発に展開されています。

● コミュニティの基本的なつながり

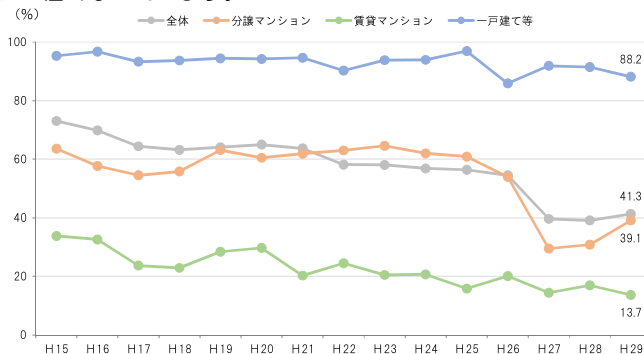
町会・連合町会（平成30年時点）

連合町会	町会数
麴町出張所地区連合町会	21町会
富士見地区町会連合会	9町会
神保町地区町会連合会	12町会
神田公園地区連合町会	20町会
万世橋地区町会連合会	21町会
神田駅東連合町会	9町会
岩本町東神田町会連合会	8町会
秋葉原東部町会連合会	8町会
〔合計〕	108町会

※準町会である皇居内町会を含む

町会加入率 ※区民世論調査の集計より

平成25年ごろ、町会加入率が大きく低下しています。特に、分譲マンションや賃貸マンションの居住者の加入率は低くなっています。



※平成28年より「マンションで一括して加入している」と回答した人を含む

千代田区マンション連絡会の開催

公益財団法人まちみらい千代田では、会員のマンション管理組合の代表者同士による意見交換及び情報交換を中心とした会を開催しています。

● 大学等の教育機関の集積の力を活かす協定等の締結

千代田区内大学と千代田区の連携協力に関する基本協定の締結

大妻女子大、共立女子学園、城西大、上智学院、専修大、東京家政学院短期大、二松学舎、日本大、日本歯科大、法政大、明治大（11大学）

～過去の連携協力～

- 「千代田学」提案制度（千代田区に関する調査研究）
- 大規模災害時における協力体制に関する基本協定
 - ・学生ボランティアの整備・派遣
 - ・施設を一時避難施設として開放 など
- 千代田区ホームページ内特集ページ開設
- 授業・放課後活動の学生ボランティア
 - その他、インターンシップ、大学公開講座、大学図書館との相互協力、大学周辺の美化活動等（協定締結前から実施）

千代田区専修学校各種学校協会と千代田区との連携協力に関する基本協定

教育や社会貢献および地域貢献の推進において、協働で取り組む基本協定

● 住民、事業者・就業者、来訪者の新しい交流・共創のカタチ

道路空間の開放+居心地のよい場所づくり

▼丸の内仲通りアーバンテラス



国家戦略道路占用事業適用区域指定（平成27年3月）

丸の内仲通り 行幸通り（地上・地下）
大手町川端緑道 千代田歩行者専用道第5号線



まち、通り、ひとをつなぐ社会実験 若者の居住を地域での活躍につなげる開発

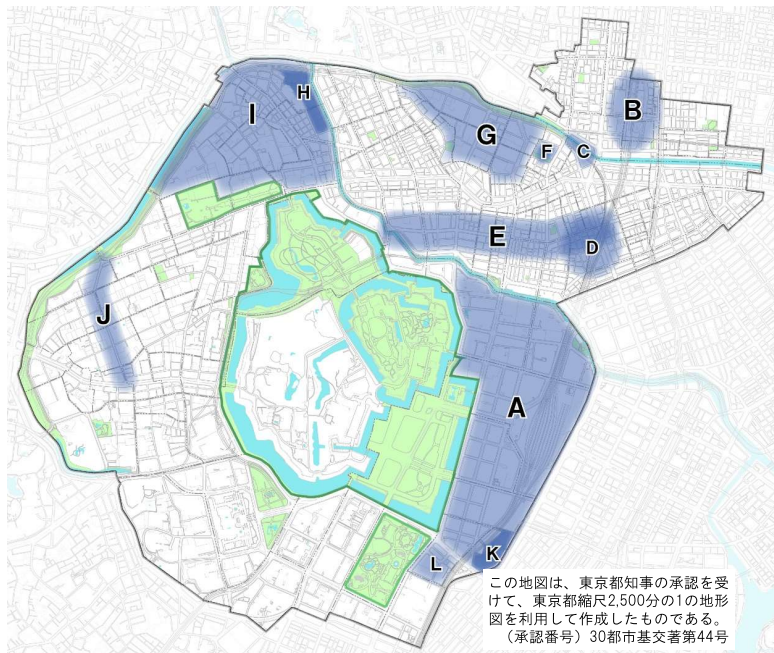
▼神田警察通り賑わい社会実験



▼学生向けの学生マンション+地域参加



● 地域主体の価値創造の取組み まちづくり協議会とエリアマネジメント



この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺2,500分の1の地形図を利用して作成したものである。
(承認番号) 30都市基交第44号

● まちづくり協議会の役割 ～まちづくり構想、ガイドラインの策定・運用～

地域の住民や事業者、商店会等で構成するまちづくり協議会でまちの将来像やまちづくりの進め方などについて、検討・協議し、地域のまちづくりの構想やガイドラインをまとめています。

● エリアマネジメントとは

地域における良好な環境や地域の価値の維持・向上させるための、住民・事業主・地権者等による主体的な取組みをいいます。

一般社団法人やNPO、株式会社、任意の協議会など、目的に応じた組織で、公共空間や空地等の維持管理や空間を活用したイベント、社会実験等を行い、新しい賑わいや交流、地域特性に応じた地域の価値・魅力の創造を先導しています。



エリア	区内のまちづくり協議会
A	大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり懇談会
C	外神田一丁目まちづくり協議会
D	神田駅西口地区まちづくり協議会
E	神田警察通り沿道整備推進協議会
G	神田駿河台地域まちづくり協議会
I	飯田橋・富士見地域まちづくり協議会
J	日本テレビ通り沿道まちづくり協議会

エリア	区内のエリアマネジメント組織
A	(一社) 大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会 (NPO) 大丸有エリアマネジメント協会 (一社) 大丸有環境共生型まちづくり推進協会
B	秋葉原タウンマネジメント株式会社
D	(一社) 神田駅周辺エリアマネジメント協会
F	(一社) 淡路エリアマネジメント
H	アイガーデンエアタウンマネジメント協議会
K	(一社) 有楽町駅周辺まちづくり協議会
L	(一社) 日比谷エリアマネジメント

MIRAI-View 保井 美樹 千代田区都市計画審議会委員 法政大学教授 地域、行政、事業者が並走するこれからのエリアマネジメント

同じ千代田区の中でも、丸の内と神田では抱える課題や目指す将来像が異なる。エリア固有の資源の活用や課題への対応が求められるなか、全国で地権者、事業者、住民など地域の関係者が連携しながら地域の課題を話し合い、課題解決のための活動を継続的に行うエリアマネジメントの取り組みが増えている。エリアマネジメント団体が行政の対等なまちづくりのパートナーとして認知され、公共的空間を活用したまちづくり活動を展開する事例も全国で見られるようになってきた。千代田区は早くからエリアマネジメント活動が活発化した地域として知られ、複数の大企業の連携によって生まれた法人組織から地元事業者や住民が主導する協議会まで組織も性格も多彩である。

桜、街路、空地などエリアの資源を活かした活動により、それぞれのエリアの個性が一層際立ち、内外から訪れる来訪者や就業者を惹きつけている。次のマスタープランでは、そうした個性あるエリアが連たんとする地域の姿がより一層具体化、進展することを期待する。

<参考> 都市再生推進法人と地域再生推進法人

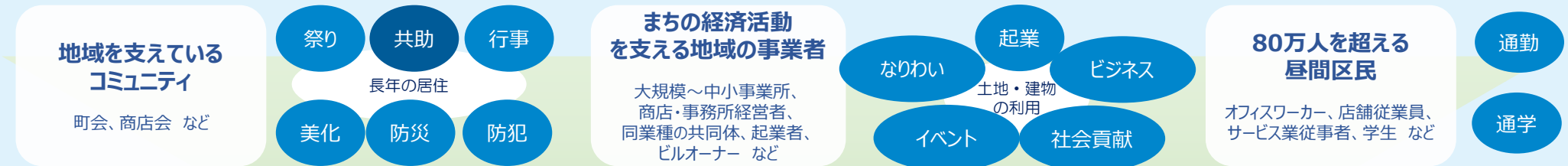
都市再生推進法人は都市再生特別措置法に基づき、地域のまちづくりを担う法人として区が指定するものです。地域再生推進法人は地域再生法に基づき、地域再生を担う法人として区が指定するものです。まちづくりや地域再生の新たな担い手としての公的な位置付けが付与されます。

千代田区では、4法人（上記表の太字で示した組織）が都市再生推進法人に指定されています。

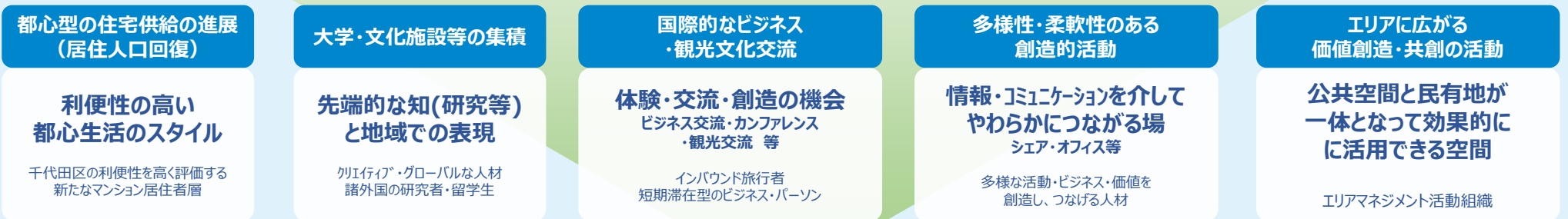
Column

ひととまちが様々なきっかけ・スタイルで関わりあい、新しい力・多様な価値が生まれ、育っていく都心へ

地域では、町会・商店会などがコミュニティを支え、様々な事業者が地域に根をはって、つながりをもちながら、まちの経済活動や活力を支えています。急速な人口減少期を経て、人口は増加傾向に転換したものの、「転出・転入」がともに多いことや、建物の老朽化が進むなど、事業を営む場としての魅力の維持が難しいことなどもあり、ひとのつながりやまちのなりわいの力が弱まっていくことが心配されています。一方で、区内に通勤・通学する多くの昼間区民の力を活かしているのは一部に止まっており、「住む」「事業を営む」「働く」だけでなく、“ひと”と“まち”の多様な関わり合いのなかで、地域のコミュニティの力やまちの価値が高まっていくような“つながり”を育てていくことが重要となっていきます。



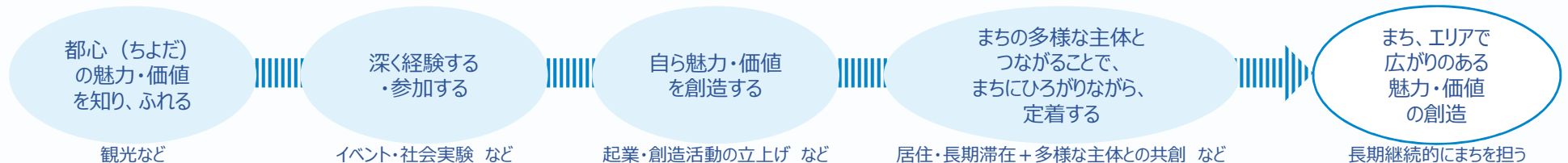
都心におけるまちの価値創造を牽引する新しい“力”への期待感



いかに、多様な“ひと”の力と“まち”の関わり合いを深めていけるか？

【これからの課題認識】

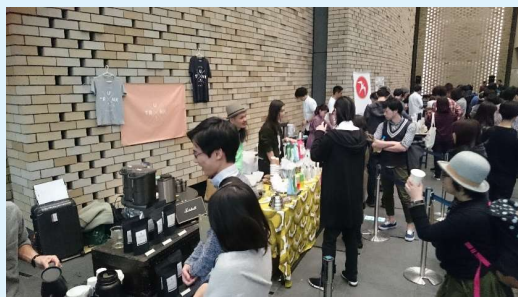
将来世代が魅力を感じるコミュニティやまちの価値創造を牽引する力として育っていく環境づくり（場所・しくみ・支援等）が重要



Column

未来を垣間見て、まちに関与できる“創造的な面白さ” ～様々な可能性と未来への投資、関与の切り口～

【都心ならではの豊かさを感じる】



都心では、平日、ビジネスで活用されている膨大な業務空間や史跡等の歴史的空間、公共の空間などが、休日には、全国、世界各地から多様なひと・コト・モノ・情報が集まり、体験したり、豊かな時間を過ごせる場となる。

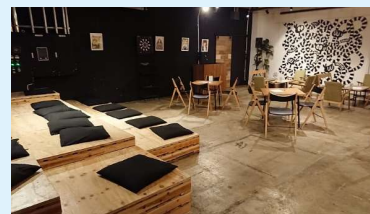


朝やランチタイム、就業後など、平日も、ゆったり過ごす場所、自分磨き、ひとと交わり、自己実現などに使える場所が豊富にある。

【多様な“知”と将来のビジョンが交わり、融合する】



通勤・通学の時間を都心で過ごす「まちの利用者」としてだけでなく、自ら「価値創造のプレイヤー」となって活動したいひとが増えている。



シェアオフィスや会議室など、多様なひとが柔軟に利用できる場所、何かを生み出したいひとが集まる場所、交流する場所が増えてきていて、多様な“知”が交わり、それぞれがもつ将来のビジョンを融合させ合いながら、新しい未来の価値を創造する土壌がある。

【一歩先の未来の一端を感じる（社会実験×先端技術）】



社会の変革を先導するような技術革新が起ころうとしている現在、こうした先端的な技術をどのように現実社会に実装できるのかが、大きな関心となっている。

そうした「未来」を具現化し、未来を考えるひとが多く集まり、それを体験できる機会や場所が都心には豊富にある。



【既存ストックが再生され、新たな魅力創造の場となる】



江戸期からの都市づくりの系譜のなかで育まれた界隈の魅力や文化がいまも都心で息づいている。



大規模な建築開発が進み、界隈性を感じるスケールやデザインの建物が減少し、まちの雰囲気は希薄化しつつあるが、老朽化が進んだ看板建物やビルの一部は、アートや文化、生業など、まちの新たな魅力の創造・発信する場所、ひとが集まり、創造する場所として再生されている。

4. 多様で高度な都心の移動ネットワーク

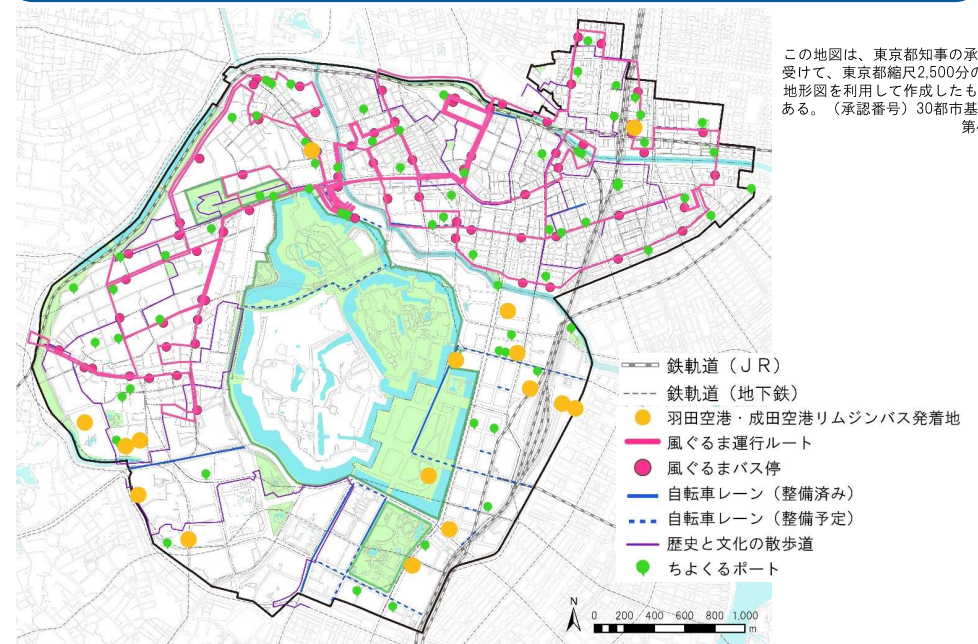
データ・資料編参照
道路・交通⇒P 137～P 143

千代田区は、ほぼ全域が鉄道駅から徒歩圏内にあり、複数路線が連絡する駅も多く、都心でも特に高度な移動ネットワークを形成され、首都東京を牽引する経済活動や多様な生活、文化・交流活動を支えています。

開発等に伴う連絡通路等で、まちと駅の一体化も進んでいます。さらに、技術革新や社会実験等により移動手段は益々高度化・多様化し、移動のサポートも充実しています。



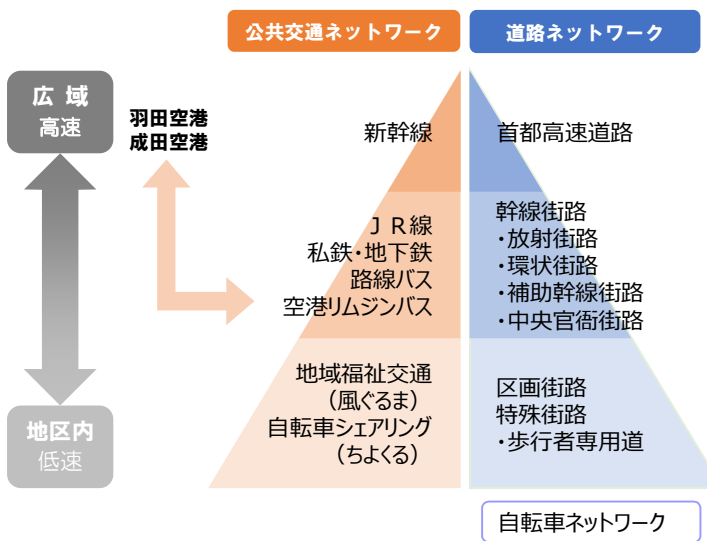
● 都心の多様な移動環境



● 千代田区の公共交通・道路ネットワークの体系

千代田区の高齢化率は当面、比較的低い水準で推移しますが、高齢者の総数は年々増加します。また、交流の結節点でもある千代田区は、多様な来訪者が行き交います。

そのため、千代田区では、人生100年時代を見据えるとともに、障害者、子育て世代の社会参加を促進し、外国人にとっても活動し、移動しやすい都市環境を充実させていくことが重要となっています。



▼開発に伴って強まるまちと地下鉄駅等との連絡



▼空港アクセスのリムジンバス発着所



▼地域福祉交通 (風ぐるま)



▼コミュニティサイクル (ちよくる)



● 地上・地下の駅及び駅周辺の改良・改修の進展



東京駅
八重洲口
※左写真
丸の内口
日本橋口



飯田橋駅
〔改良工事中〕
※左イメージ図



秋葉原駅
昭和通り口
中央口
アトレ口
※左写真
電気街口



御茶ノ水駅
〔進行中〕
地下鉄駅の改修
開発に伴う
連絡通路等の充実
など

● 移動手段の多様化への取組み（社会実験）



舟運
平成27年度～
秋葉原

写真：
千代田区観光協会HP



**超小型モビリティ
+カーシェアリング**
平成28年
大手町



**自動運転
（バス）**
平成29年、12月
丸の内仲通り



**自動運転
（タクシー）**
平成30年8～9月
大手町～
六本木ヒルズ間

MIRAI-View 橋本 美芽 首都大学東京大学院准教授 「福祉のまちづくり」の進化をめざして

「人生100年時代」が予測され、障害者の差別解消、多様性の尊重が社会に求められる時代の都市づくりにおいて、「福祉のまちづくり」は、より広範な領域へと展開しています。
例えば、防災分野では、高層マンションにおける高齢者の孤立、福祉避難所の確保などが課題として認識されるようになり、都市施設では、道路や駅のバリアフリー化はもとより、障害のある子どもも共に楽しく遊ぶことのできるインクルーシブ公園など、都市づくりのあらゆる分野で福祉の視点が配慮されるようになってきました。こうした取り組みは「誰一人取り残さない」というSDGs基本理念に通じるものであると思います。
しかし、現実の都市には、まだ様々な障壁が存在しています。特に、日々数百万人規模の人々が活動する千代田区では、円滑な移動環境の整備が期待されます。都心だからこそ、最先端の技術や民間の力を最大限に活用し、高齢者、障害者や子どもたちなど、都市の多様な当事者とともに、ハード・ソフト両面でユニバーサルな移動環境のモデルを築いていくことが求められています。

4. 多様で高度な都心の移動ネットワーク

● エイバーデザイン・おもてなしのサイン、バリアフリー情報(マップ)

まちなかのデザイン



公共サインのガイドライン



マップによる可視化



● 移動のサポート環境のさらなる充実

Wi-Fi環境の充実



トイレの整備

(平成30年7月現在)



この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺2,500分の1の地形図を利用して作成したものである。(承認番号) 30都市基交審第44号

- 皇居等（靖国神社・北の丸公園・千代田・皇居外苑・日比谷公園）
- 都市計画公園・緑地
- 一団地の官公庁施設
- 河川・濠（日本橋川・神田川・内濠・外濠）等
- 都市計画道路（整備済区間）
- 都市計画道路（計画決定区間）
- 都市計画道路（事業認可区間）
- 鉄軌道（JR）
- 鉄軌道（地下鉄）

5. 豊かなみどりと水辺に彩られた都心

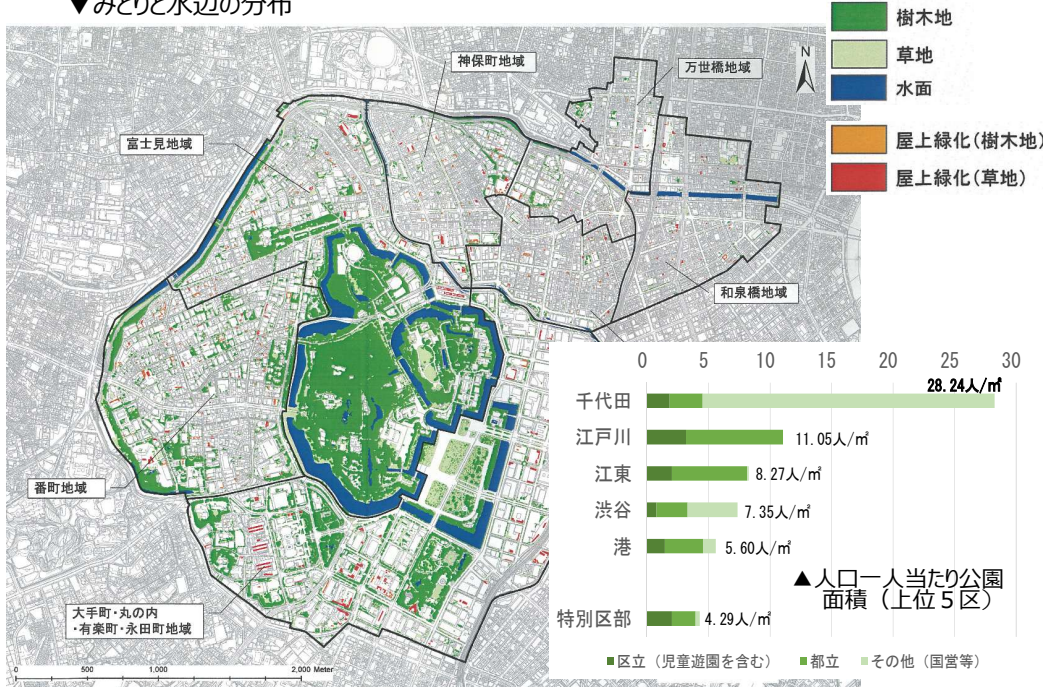
3. 都心「ちよだ」の魅力・価値

千代田区の中心に位置する皇居やそれを取り巻く内濠には、都心のアメニティや生物多様性を支える豊かな環境が存在し、区境に位置する外濠とともに、東京の区部最大級のみどりと水辺の空間として都市の骨格を形成しています。

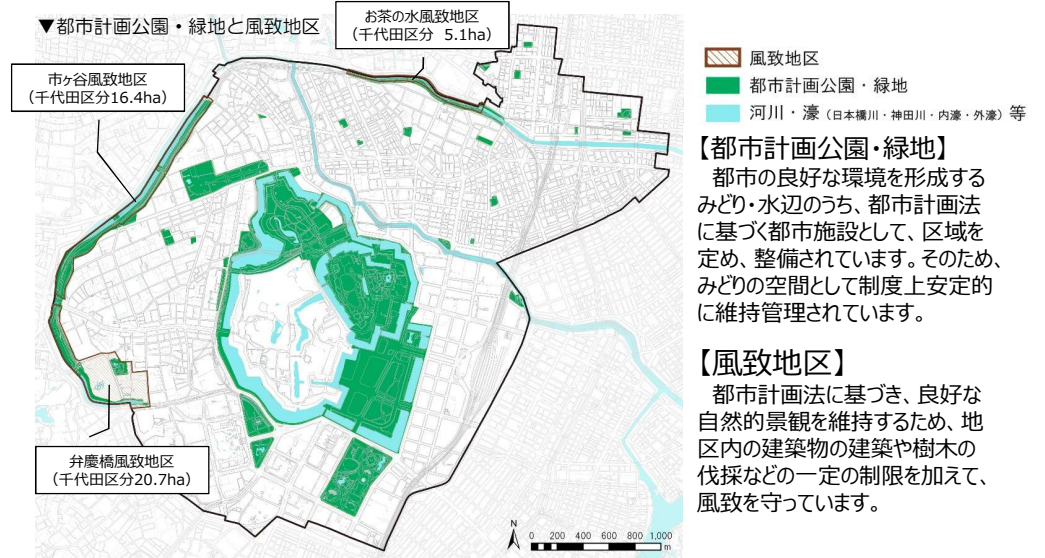
また、かつて「水の都」として栄えた江戸において、水運の主軸として経済や暮らしを支えた日本橋川や神田川などでも、都心ならではの水辺空間を再生しようという動きが芽生えています。都心におけるみどりと水辺の空間は、千代田区だけでなく、広域的にも重要な拠点・骨格となっており、近年では、これを守りながら、周辺へと連続性を高め、まちなかの環境を豊かにする取り組みが進んでいます。

江戸城の遺構・皇居に沿って豊かなみどりの骨格を形成

▼みどりと水辺の分布



都市計画法に基づく公園・緑地等



この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺2,500分の1の地形図を利用して作成したものである。(承認番号) 30都市基交審第44号

▼弁慶橋風致地区



▼市ヶ谷風致地区



▼お茶の水風致地区



MIRAI-View 福井 恒明 千代田区景観アドバイザー 法政大学教授 水都の伝統をとりもどせ

世界中で都市の水辺が注目されているのに、千代田区では水辺が活用されていない。江戸城外濠・内濠や日本橋川は水都江戸から引き継いだ、高密度な都市内の貴重な資産である。これらは都市空間の一部として、周辺との連携を充実させて使いやすく調え、その存在価値を高めるべきである。水辺を中心としたパブリックスペースの誘導・接続によって連続した豊かな都市空間を創出したい。水辺は斜線制限の適用除外を受けるため、ビルの谷間のようにがちである。そうではなく「水辺斜線制限」を設けて豊かな水辺の都市空間を確保するなど大胆な発想の転換をすべきである。水辺には余裕を持った歩行者空間や防災を含む公共施設などの多様な都市機能を配置する。整備が進む防災船着き場も普段使われないものは災害時にも使いにくいはずだ。さらに、水辺に隣接する敷地には水辺にアクセスする公共的通路を誘導し、都市の歩行者ネットワークとの接続・拡張を図ることも必要である。

● 官民連携による都市計画公園の充実とマネジメント

千代田区では、市街地再開発事業を契機に、市街地の一体的更新のなかで、官と民が連携して都市計画公園の充実や新たな空地の確保等により、規模の拡大にとどまらず、高質なオープンスペースの創出を図り、維持管理を行う事例が増えてきています。

事例①：淡路町二丁目西部地区（ワテラス）

平成19年4月6日変更 神田淡路町周辺地区地区計画
 平成19年4月6日変更 都市再生特別地区
 平成19年4月6日決定 第一種市街地再開発事業
 平成25年2月26日 北街区工事完了
 平成25年4月30日 南街区工事完了

東京のしゃれた街並みづくり推進条例「まちづくり団体の登録制度」

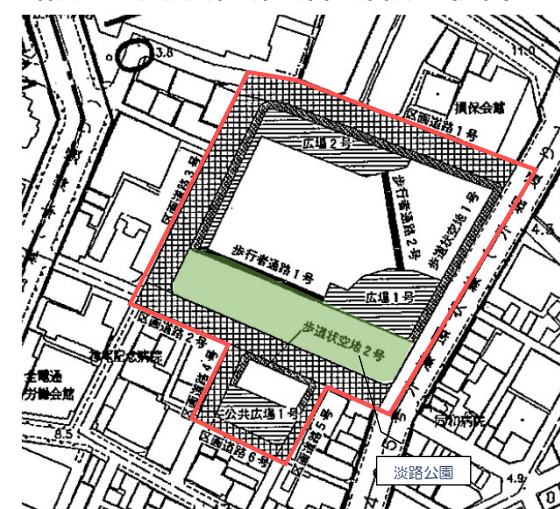
【団体名：ワテラス JR神田万世橋ビル】

公開空地等を活用した賑わい創出活動、有料の公益的イベント（ステージイベント、マルシェ、オープン交流カフェ など）

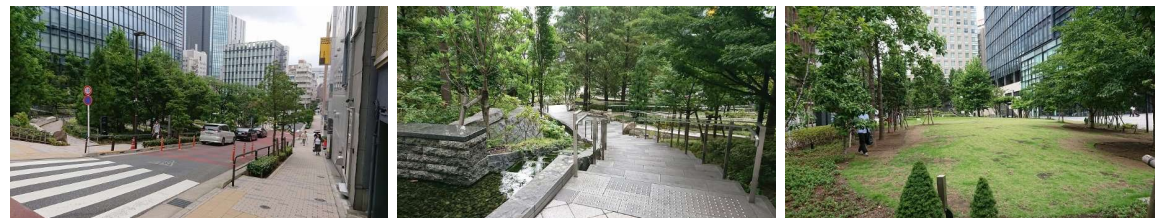
▼平成10年当時の区域



▼神田淡路町周辺地区地区計画 計画図2（抜粋）



▼拡充された淡路公園



～事業に伴う主な取組み～

- ① オープンスペース、歩道状空地
- ② 多世代住宅の整備
- ③ スーパーの整備
- ④ 地域防災及び
帰宅困難者支援の活動拠点整備
- ⑤ 屋上緑化・保水性舗装等の
ヒートアイランド対策
- ⑥ 公園機能の再編・拡充
(2,500㎡⇒3,000㎡)
- ⑦ 周辺道路の無電柱化等
- ⑧ コミュニティ施設・
学生マンション（36戸）の整備
- ⑨ タウンマネジメント組織による
まちづくり

※一般社団法人 淡路エリアマネジメント

MIRAI-View 池邊 このみ 千代田区景観審議会委員 千葉大学教授 緑の都心千代田区の未来

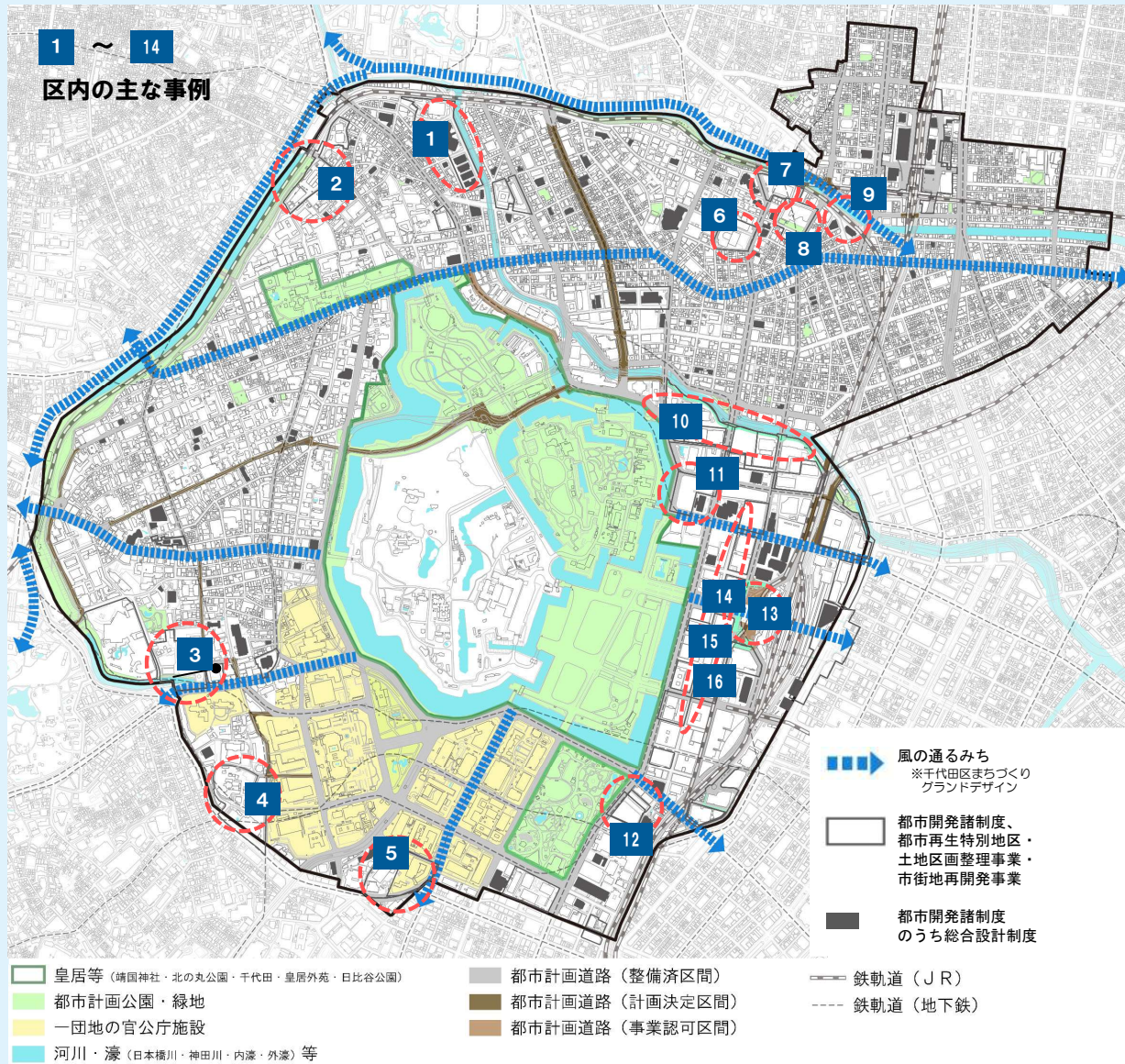
近年、都心では多様性に富んだ緑が増えています。デザインだけでなく、技術や管理運営についても進歩や工夫が見られ、法改正の後押しもあり、今後さらに大きな変化が予想されます。だからこそ、量的な面だけでなく、高質なデザイン、良好なマネジメントにより、多様なコミュニティで活用される「居心地の良い」緑の空間が求められます。都心居住者、オフィスワーカー、来街者、それぞれの活用シーンで憩うことができ、ビルの谷間であることを忘れさせる「都心のオアシス」を多く創出していくために、市民緑地認定制度の活用、公園等既存の緑のストックと民間開発との連携を進める必要があります。

また、高密度な都市部では、新たなみどりの評価軸として壁面緑化を含めた「緑視率」や、屋上緑化等による「生物多様性」の視点を加える必要があります。

さらに、公園や街路樹の緑については、老朽化の状況を踏まえ、国の法改正や基準改正を反映し、長期的な視点に立ち、維持管理予算などを踏まえ、適切に管理・更新していく必要があります。緑にかかわる多様な主体とのコミュニケーションを図りながら持続可能で美しい緑を次代に引き継ぐことが求められます。

Column

公共空間（道路・公園・河川等）と一体性の高いオープンスペースが各所で生まれ、都心のくつろぎの時間や多彩な活動が生まれる源泉となっています。



▼歴史的遺構を活かした空間



▼公園と一体 + 道路と連続の高い空間



▼四季の変化を感じられる空間



▼各所に生まれている眺望ポイント



▼水辺再生を先駆的に進める空間



▼夜間も過ごしやすいデザインの空間



1 アイガーデンエア



5 霞ヶ関コモンゲート



9 マーチエキュート神田万世橋



13 行幸通り（東京駅丸の内駅舎/駅前広場）



2 飯田橋サクラパーク



6 三井住友海上駿河台別館(ECOM駿河台)



10 大手町川端緑道



14 行幸通り（イベント開催時）



3 東京ガーデンテラス紀尾井町



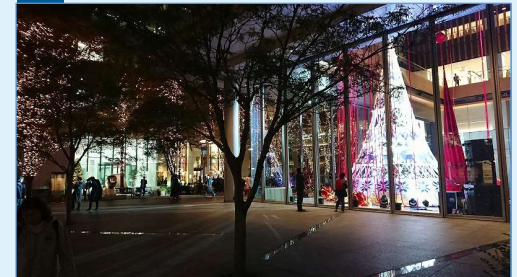
7 御茶ノ水ソラシティ



11 大手町ホトリア



15 丸の内仲通り（民有地と連続性の高い空間）



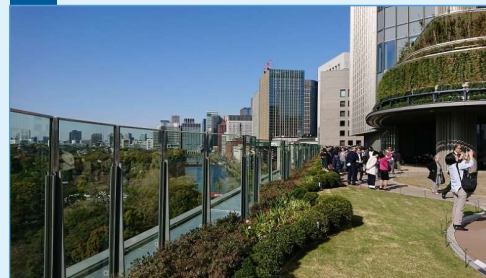
4 山王日枝神社/山王パークタワー



8 ワテラス



12 東京ミッドタウン日比谷（屋上テラス）



16 丸の内仲通り/丸の内パークビルディング



6. 環境・エネルギー基盤が支えるスマートな都心

データ・資料編参照
環境⇒P 161～P 167

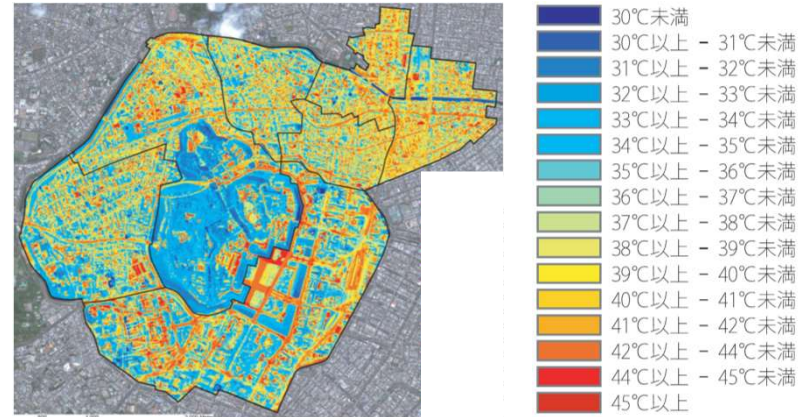
千代田区の都市機能の集積と活発な都市活動は、大量のエネルギー消費を伴っています。また、クールアイランドを形成する皇居の緑地を中心に夏場の地表面温度は和らいでいますが、建物密度の高いエリアなどではヒートアイランド現象が顕著になっています。

環境モデル都市千代田区は、建築物の低炭素化やエネルギー対策はもとより、まちづくりと連携した面的対策等、低炭素都市づくりを先駆的に展開しています。

また、活発な開発動向や都市機能の集積を活かし、エネルギー面的利用の促進、未利用・再生可能エネルギーも活用した自律分散化を進めて、低炭素だけでなくエネルギー強靱化も図るため、ポテンシャルを可視化した「地域エネルギーデザイン」を描いていきます。

● 皇居を中心にクールアイランドを形成

地表面熱分布 ～大手町・丸の内・有楽町や番町・麹町で熱分布の温度は比較的低い～



● 環境モデル都市としての先駆的取組み

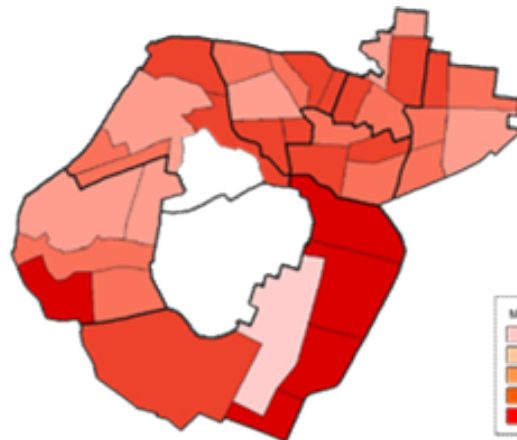
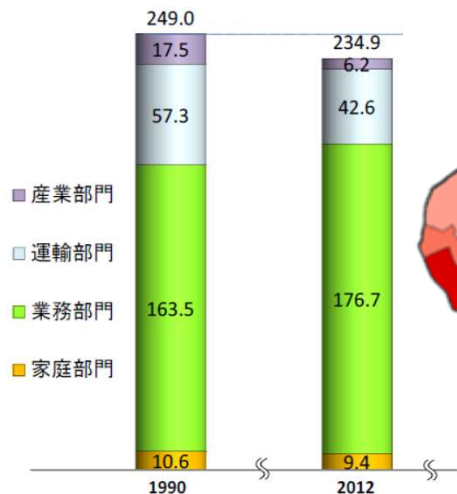
千代田環境モデル都市として先駆的取組みへチャレンジ（低炭素都市づくり）

区では、低炭素社会の実現に向け高い目標を掲げて先駆的な取組みにチャレンジする都市として、平成21（2009）年に国から都内で唯一の「環境モデル都市」に選定され、地球温暖化対策のための二酸化炭素の排出量削減に取組んでいます。

● 業務機能集積エリアで大きいCO2排出、一次エネルギー消費

区内のCO2排出実績

一次エネルギー消費量



I 高水準な建物のエネルギー対策の推進
新築建物や既存建物の低炭素化
区有施設の低炭素化、創エネ・省エネの促進など

II まちづくりの機会と場を活かした面的対策の推進
温暖化対策の促進 地域交通における低炭素化、ヒートアイランド対策
面的なエネルギーデザイン など

III 地域連携の推進
都心の低炭素化と地方の活性化の両立
昼間区民の温暖化対策行動の促進啓発活動
家庭部門の対策（建築、設備、エネルギー管理）波及効果の最大化
体験型地球温暖化対策の推進 など

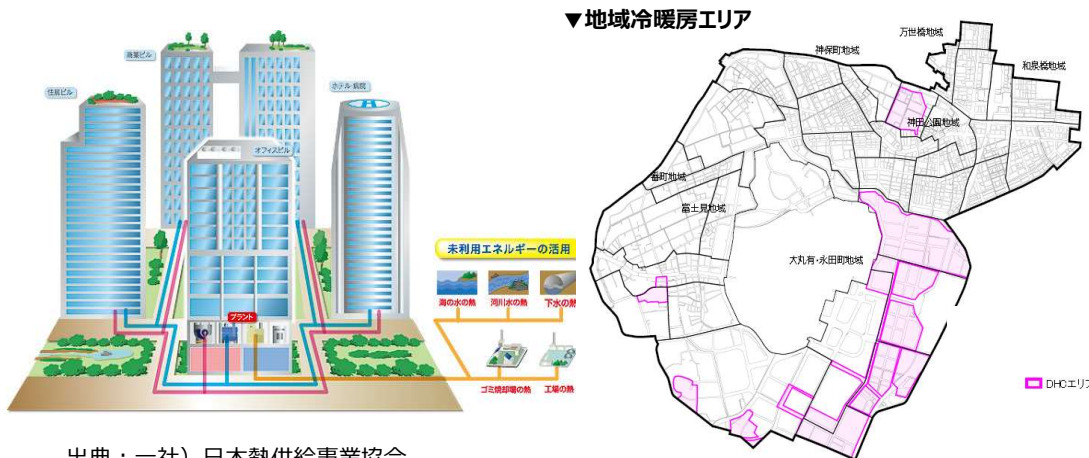
特別優良環境建築
『特別優良環境建築』性能表示
(CO2削減率35%以上の場合)



● エネルギーの面的利用

区内の地域冷暖房供給エリア

千代田区では、現在、大規模開発事業に伴い、13の地域で「地域冷暖房」システムが導入されており、CO2削減の効果をあげています。大手町、内幸町、紀尾井町では、現時点で地域冷暖房の供給先となっていない建物が多く、今後の発展のポテンシャルがあります。



出典：(一社)日本熱供給事業協会

MIRAI-View 村木 美貴 千代田区都市計画審議会委員 千葉大学教授 これからの都市のデザインとエネルギー

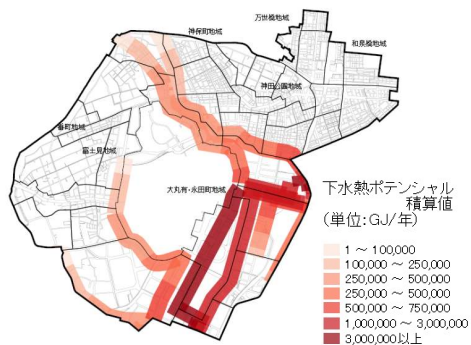
パリ協定を経て、世界の多くの都市は環境負荷低減を目指した都市づくりを進めている。都市レベルで求められるのは、グリーンビルの建設とエネルギーの有効利用、面的なエネルギーネットワークの構築である。都市づくりは1日ではできない上に、エネルギーインフラの構築には、明確な都市の将来像と計画、並びにそれを実現させる開発誘導が必要となる。

千代田区は日本の政治とビジネスの中心を抱える地域であり、エネルギー需要も高い。そのため、環境に配慮したエネルギーの有効利用を図っていくことが求められる。

今後、より化石燃料に依存しない都市づくりが求められるようになるため、エネルギーインフラ整備を積極的に進める必要がある。現在、千代田区には、大丸有エリアや霞が関エリアなどにエネルギーネットワークが存在するものの、これを区域の各所に展開していくこと、ネットワークへの接続建物を増やしていくこと、そのための仕組みを作っていくことが、低炭素型市街地形成に求められる。

● 未利用・再生可能エネルギーのポテンシャルの可視化の研究 ～地域エネルギーデザイン～

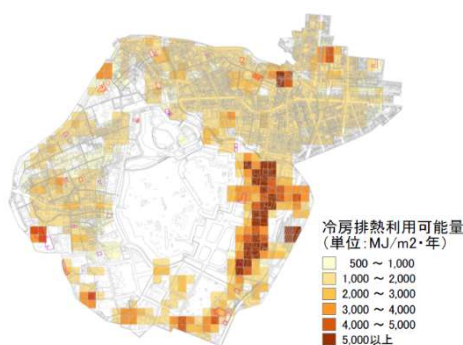
下水熱利用ポテンシャル



～ポテンシャルが高いエリア～

- 大手町・丸の内・有楽町・永田町地域の全域
- 万世橋地域、和泉橋地域、富士見地域、神保町地域の下水道幹線に近いエリア
- 下水流量の多い下水道幹線沿い
- 管径の大きい下水道管を敷設しているエリア

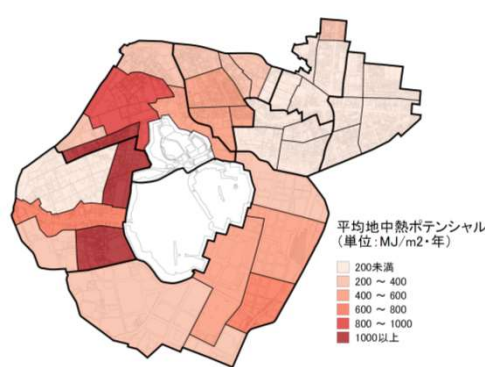
冷房排熱（ビル排熱）利用可能量



～排熱利用が有効と考えられるエリア～

- 給湯負荷が高く、冷房負荷もある神保町・万世橋・和泉橋の各地域
⇒温熱需要の高い宿泊施設や医療施設等の給湯や暖房に活用することでCO2を抑制する効果

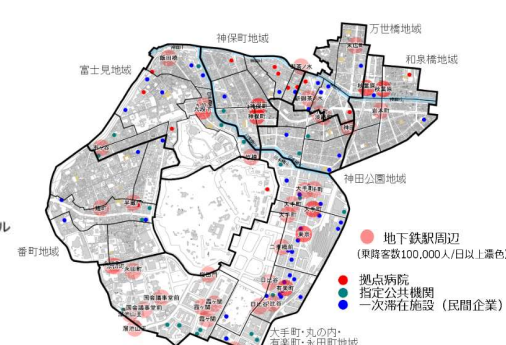
地中熱利用ポテンシャル



～地中熱利用が有効と考えられるエリア～

- 冷房負荷と暖房負荷がおおむね同等でバランスの良い地域
(番町地域や富士見地域)

排熱利用が考えられる地下鉄駅



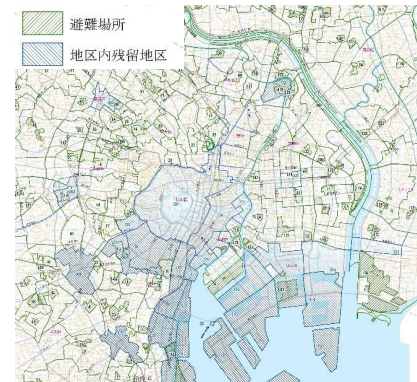
～ポテンシャルが高いエリア～

- 乗降客数(※)の多い地下鉄駅に隣接するエリア
※平均乗降客数10万人以上
(東京都「地域におけるエネルギー」の有効利用に関する計画制度」利用可能エネルギーの目安より)

7. 大規模災害にそなえた都心の対応力

千代田区は、全域が地区内残留地区で災害危険度は低いとされていますが、首都直下型地震の発生が想定されるなか、一部では建物の倒壊のリスクが高くなっています。また、突発的な集中豪雨（内水）や荒川の氾濫（外水）のリスクにもそなえが必要です。

そのため、住民はもちろんのこと、多くの就業者や滞在者も含めた災害対応力の強化が求められています。また、首都機能や国際ビジネス交流の中核機能の継続など、都心の持続可能性、強靭性を高める取組みが始まっています。

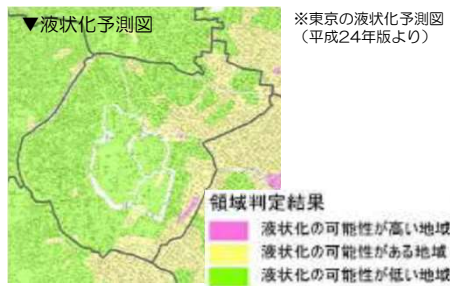


※地区内残留地区
建物の不燃化が進み、大規模な延焼火災による広域的な避難を想定していない地区

千代田区の地震被害想定と建物倒壊のリスク

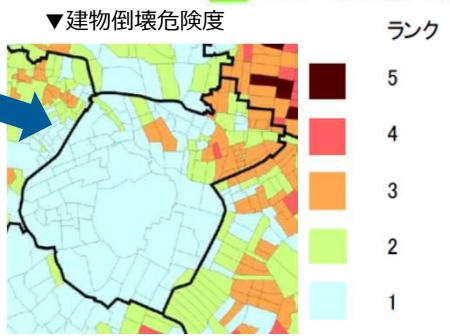
【千代田区における地震の想定(条件)】
規模：東京湾北部地震M7.3 最大震度：6強

【区内の主な被害想定】
死者：336人 ※建物被害等の要因 333人
建物被害：全壊 835棟、半壊 1,775棟
帰宅困難者：501,355人
避難生活者数：7,199人
※いずれも、冬の朝5時、冬の昼12時、冬の夕18時の想定のうち最大のもの



▼町丁目別の危険度（各ランクの町丁目数/全町丁目数）

建物倒壊危険度	(ランク4) 1/115 (ランク3) 26/115 (ランク2) 20/115 (ランク1) 68/115
火災危険度	(ランク2) 11/115 (ランク1) 114/115
災害時活動困難度	(ランク2) 5/115 (ランク1) 110/115
総合危険度	(ランク2) 3/115 (ランク1) 112/115



千代田区の地域防災力と多くの滞在者を前提とした災害対応

- **地域防災組織** 町会で結成された自主防災組織数（107）
麹町出張所地区（20）富士見出張所地区（9）神保町出張所地区（12）神田公園出張所地区（20）万世橋出張所地区（21）和泉橋出張所地区（25）
- **防災隣組（認定団体数）**
町会と事業所等の連携（4団体）・企業間の連携（1団体）・地域住民間の連携（3団体）
- **区内大学との協定**
学生ボランティアの育成・地域住民・帰宅困難者等の被災者への一時的な施設の提供
大学施設に収容した被災者への備蓄物資の提供
- **帰宅困難者対策地域協働会**
・地域（町会）および地域事業所で構成員する自主防災組織（4団体）
【平時】防災訓練等を通じて地域防災力の向上
【大規模震災等発生時】大量に発生すると予測される帰宅困難者に対し、区と連携・協力して情報提供等支援
- **帰宅困難者受入施設協定**
区全体の受入可能数 最大84施設、約35,210人（平成29年11月時点）
- **災害時の退避場所の指定** 都心の広いオープンスペースの利用を想定して指定

都市再生特別措置法に基づく安全確保計画（大手町・丸の内・有楽町地区）

公民連携の下、エリアマネジメントの一環として、都市防災機能を強化し、地区の安全の重層的な確保を目指したハード・ソフト両面の取組みを推進

- ①日本経済の中核機能を担う大丸有地区の業務継続力の強化
- ②日本有数の業務、交流・文化地区として滞在者すべての安全・安心の確保

都市再生安全確保計画と連動した開発の促進

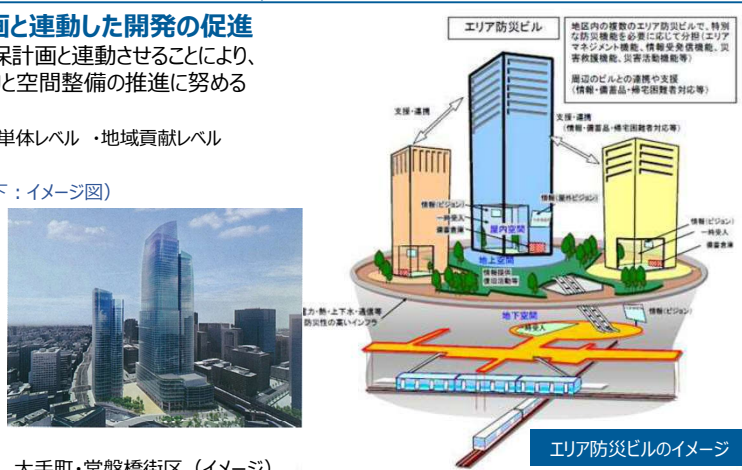
◇開発を都市再生安全確保計画と連動させることにより、災害時に一層安全な建物と空間整備の推進に努める

↓
〔防災機能の評価〕・建築単体レベル・地域貢献レベル

↓
エリア防災ビルの認定（右下：イメージ図）

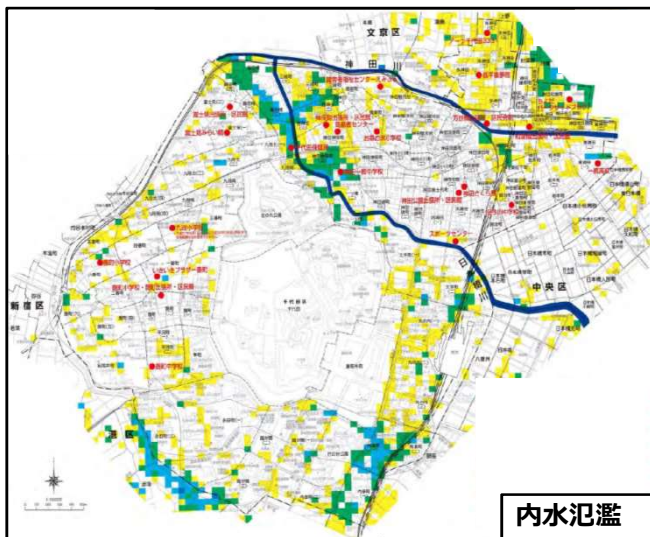
BCD※拠点の設置等
（例）常盤橋街区
大規模な広場空間＋高度な防災拠点機能

※エネルギーの自立化・多重化に資するエネルギー面的ネットワークにより、災害時の業務継続に必要なエネルギーの安定供給が確保される業務継続地区

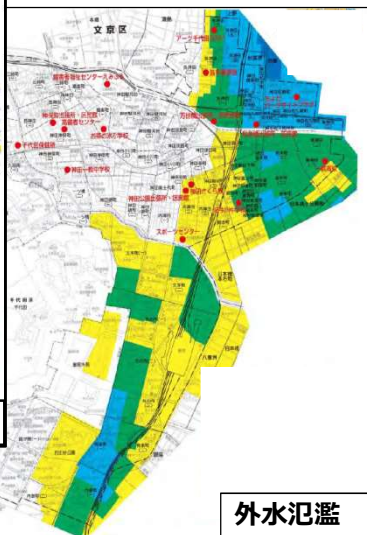


● 都市型水害のリスク（洪水ハザードマップ）への対応

▼洪水ハザードマップ（東京都作成資料より抜粋）



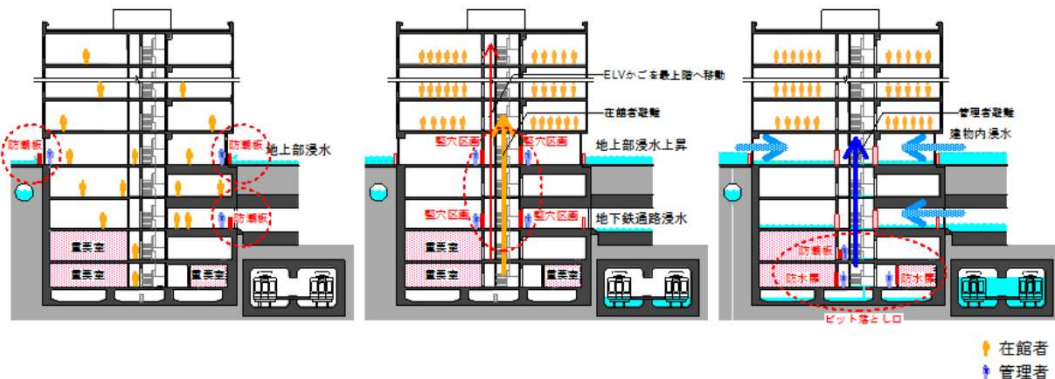
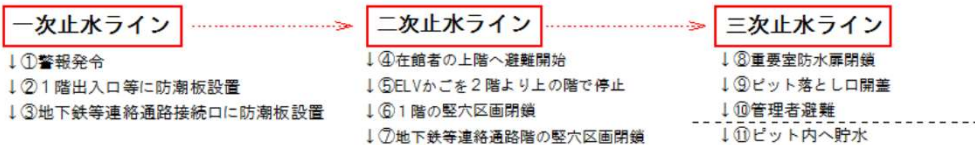
▼洪水ハザードマップ荒川版
(国土交通省作成資料より抜粋)



内水氾濫

外水氾濫

外水氾濫による浸水被害対策の時間経過イメージ（大手町・丸の内・有楽町地区）



在館者
管理者

MIRAI-View 小澤 一郎

(公財)都市づくりパブリックデザインセンター顧問

迅速な大規模震災復興のための事前準備

中枢業務機能が集積する千代田区においては、将来発生が想定される大規模震災後に、出来る限り迅速な復興を図るため、十分な準備をしておくことが重要である。

都市基盤、建築物とも高い防災性能で整備されている大手町・丸の内・有楽町地区では、大きな被害は想定されないが、その周辺エリアでは、耐震性能が十分でない中小建築物の集積がみられ、倒壊や大規模損傷がなくても、継続使用することが困難になるものも多く出ると想定される。こうしたエリアにおいて、地区ごとにきめ細かな被災想定を行い、復興の在り方や、それを円滑に実施するために、様々な準備を事前に行っておくことが重要である。

具体的には、都市マスタープランに「復興街づくり事前準備」を位置付けその内容を検討すること、また、「創造的復興ビジョン」を示すとともに「復興マニュアル」を再点検すること、さらに、震災復興条例の制定も視野に入れて検討する必要があると考える。

MIRAI-View 村上 公哉 芝浦工業大学教授

千代田区における都市型災害への対応と地域継続性の意義

都市型災害には首都直下型地震による建物倒壊、集中豪雨や荒川決壊による浸水被害などがあるが、千代田区の災害危険度想定は相対的に低い。しかし現在、都市型災害では、建物・施設の物理的被害のみならず、エネルギー、水などのライフラインや交通インフラなどの機能停止による都市機能麻痺をどう回避し、地域の都市機能や生活機能をいかに継続性するか、が重要視されてきている。

特に、千代田区は大丸有地区などの日本有数の業務集積地区、霞が関などの官公庁集積地区を包含するとともに、都心居住回帰を背景にタワーマンションなどの建設が増えつつある。そのためわが国の中でも千代田区が最も災害時の地域継続性を求められている都市といえる。そこで、今後とも区内の各地域性を考慮しつつ、地域継続性を確保するための地域インフラ整備が期待される。

また、企業活動、観光をはじめ国際化が進展する中で、来訪者の外国籍割合が増えている。昼間人口が非常に多い千代田区では、災害時の帰宅困難者対策は大きな課題であり、外国籍来訪者への対応方策の整備も期待される。

Column

定住人口5万人回復の目標を達成し、社会の変化、技術革新が進むなか、都市づくり・まちづくりは、新たなターニングポイントを迎えています。

〔今後の人口増加と超高齢社会に対応した持続的なコミュニティ〕

定住人口5万人回復を達成。

若い世代・ファミリーが暮らしやすいまちへの進化や、来るべき人生100年時代の社会はどのようにイメージすべきか。



▲番町の庭（若い住民、親子のくつろぎの場）

～視点の例～

- ★買い物環境、生活支援インフラ
- ★子どもの居場所と子育て支援環境
- ★健康志向のライフスタイルを豊かにする環境
- ★誰もが活動しやすいまちの環境
- ★古くから形成されてきたコミュニティと新住民のつながり

など

〔高度な土地利用が進むまちの更新・再生〕

容積率が高く、都市機能が高度に集積する一方、建物の老朽化も進行。界隈の個性と文脈、文化、コミュニティを伝えながら、いかにまちの課題解決、リノベーション、まちの再生に結び付けていくか。



▲リノベーションで甦る建物・機能

～視点の例～

- ★まちの再生と交流・創造・発信の場づくり（多様で柔軟なまちづくり手法）
（機能更新時期をむかえた建物の建替え、耐震化・リノベーション、活用・スペースの運営など）
- ★駅とまち、地上と地下をつなぐ安全で移動しやすい通路と滞留空間（高度な集積の諸問題への対応）
- ★周辺環境との調和、地域課題解決が全体最適となるまちづくり、開発誘導

など

〔技術革新のステップを見据えた自動車利用のマネジメント〕

自動車利用が減少していく東京都区部。

鉄道利用の割合が高まり、自動運転技術等の技術が進展するなか、都心（千代田区内）の交通をどのようにマネジメントすべきか。



▲路外駐車場とパーキングメーター

～視点の例～

- ★歩いて暮らしやすいまちに対応した地区レベルのきめ細かな交通マネジメント、道路空間の配分
- ★地域特性に応じた駐車場需要と附置義務等の制度運用の適正化
- ★新たな交通モードへの戦略的対応
例）・水辺再生×舟運 ・シェア×超小型モビリティ
・自動運転技術×ICT×交通マネジメント×道路構造
- ★次世代交通を見据えた交通結節機能の強化

など

〔魅力ある空間+ネットワーク創出、活用・マネジメントへの進化〕

多様な空間・機能が創出され、ネットワークが広がるまち。

ハード・ソフトの両面から、公共空間との連続性・一体性を高め、人々の滞在時間、活動をいかに安全で豊かなものにしていくか。



▲神田川沿いの船着場と建物内の水辺のカフェ

～視点の例～

- ★魅力・ポテンシャルのある空間の価値創造・再生（公園・緑地、広場、水辺・船着場など）
- ★民間主体で創出する緑地空間・ネットワークのための制度活用
- ★エリアマネジメントの展開を想定した公共空間のあり方（道路、公園等の空間の開放と活用）

など